

また、小集団による話し合い活動という紋切り型の実践が蔓延していること、さらに「活動あって学びなし」といった授業のあり方などが問題とされていました。そのような問題意識をもちつつも、子どもたちが主体的な学びを実現していけるようにするためには、各学校現場の教職員自身が主体性を発揮できるようにすることが重要になるはずで、私たちは、そのための十分な制度的・物理的条件が整備される必要性、および現場の裁量範囲である教育方法に上位機関が安易な統制をはかることの危険性を唱えていきましょう。

●ボトムアップ型教育改革へ

道徳の教科化、小学校における外国語の教科化、プログラミング教育の必修化など、その重要性・必要性に関して教育現場の声を十分に反映することなく、トップダウンによる教育課程改革がすすめられています。私たちは、新たな産業社会の変化を視野に収めつつも、より望ましい民主主義社会の実現のために、こうした改革への批判的視点を明確にしながら、それが子どもたちのゆたかな学びを阻害することにならないようなとりくみをめざしていきましょう。

